

2016年(平成28年)5月8日(日曜日)



増毛山道の歴史説明

入り口付近に看板設置

【増毛】町教育委員会は6日、町別荘の増毛山道入り口付近に山道の歴史を伝える看板を新たに設置した。

町は、昭和53〜平成11年に史跡30カ所を指定。観光シーズンの夏季、町総合交流促進施設「元陣屋」を除く29カ所に標柱を設置しているほか、平成23年から毎

年一カ所ずつ史跡を紹介する看板を更新、あるいは新規の看板を設置し、観光客らに歴史のマチをアピールしている。

増毛山道は1857年(安政4年)、当時増毛の漁場を請け負っていた2代目伊達林右衛門が自費で増毛町別荘〜石狩市浜益区幌間(32㌔)に開削したもので、昭和56年に国道231号が開通するまで、連絡船が運休時の急な用事などに利用されていた。

この日は午前10時から看板の設置作業が始まり、町教委職員ら3人が汗を流し

た。看板の大きさは縦70㌔、横90㌔。「旧増毛山道入口」と記し、山道の歴史を説明しているほか山道のルートを紹介している。

町教委は「元陣屋や観光案内所で配布している『史跡マップ』を片手に増毛を歩いてもらい、マチの歴史に興味を持ってもらいたい」としている。

(雪田康一郎)

増毛町別荘の増毛山道入り口付近に看板を設置する町教育委員会の職員ら